

極東軍事裁判所

153 115016-1
亞米利加合衆國其他對荒木貞夫其他ニ對スル宣誓書
私小泉梧郎ハ良心ニ從ヒ左記供述ハ眞實ナルコトヲ
宣誓シマス。

千九百三十五年（昭和十年）ヨリ千九百四十年（昭和十五年）ニ至ル間諸縣ノ警察部長ヲ勤メマシタノ
デ警察部長トシテ日本ニ於ケル警察運営ニ付テ知識
ヲ持ツテ居リマス。日本ノ警察ハ内務省警保局ノ命
令並ニ監督下ニアリマシテソノ職責ニ關聯シテ専ラ
左記法律ノ違反ヲ取締リ及ビ命令ノ遂行ニ從事シテ
キマシタ。

一、治安警察法　コノ法律ハ明治三十三年公布サレ
タモノデアリマス。

二、治安維持法　千九百二十五年（大正十四年）ニ
制定サレ千九百四十一年（昭和十六年）改正サ
レタルモノ。

三、軍機保護法　千九百三十七年（昭和十二年）ニ
制定サレ軍ノ作戰用兵動員ニ關スル機密ヲ保護
スルタメノモノ。

四、軍用資源秘密保護法　千九百三十九年（昭和十
四年）軍ノ物的並ニ人的資源ニ關スル凡テノ秘
密ヲ保護スルタメニ制定サレタルモノ。

法律ノ實施ニ當リ警察ハ新聞刊行物書類書籍映畫演
劇ソノ他ノ慰安具行物、演說、集會等ノ檢閲ニ關シ

11507-2

しコレ多クニ於ケル檢問法ヲ實施シ特ニ政府ニ反對
スル言論ノ組織ニ活動シ若シ之等ノ人が其ノ指導ニ
從ハズ且ツ法律ニ違反シタ場合ニハ拘置スル。
各警察署ハ政事ヲ目的トシタ演説並ニ團體的活動及
社會運動ハ事前ニ其ノ次第書ノ草稿ヲ提出スルコト
ヲ要求シタ。映畫及演劇ニ付テハ發表前ニ内務省ノ
許可ヲ得ル必要ガアリマシタ。警察ハ映畫及演劇ガ
當時存在シアリシ日本政府ノ政策ニ反シ或ハ又面白
カラサルモノナリシ場合或ハ又法律ニ從ハスシテ其
ノ許可ヲ得ル爲メニ内務省警保局ニ上記ノモノヲ提
出セサリシ場合ハ之等ノ發表ヲ禁止スル職權ヲ持ツ
テ居マシタ又警察署ニ提出シタ次第書ニ從ツテ行ハ
レナカツタ政事上ノ目的ヲ持ツタ演説及凡テノ團體
的或ハ社會運動ヲ禁止又ハ中止セシムルコトガ出來
マシタ。千九百二十八年（昭和三年）國內全般的基
礎ノ上ニ警察部ノ中ニ特高課ガ設定サレマシタ其ノ
任務ハ専ラ極左及極右ノ活動及千九百三十一年（昭
和六年）ヨリ千九百四十一年十二月七日（昭和十六
年）ノ間ニ存在シアリシ日本政府ノ政策ニ反對スル
人々ノ活動ヲ監視スルコトデアリマシタ。例ヘバ千
九百三十七年（昭和十二年）ノ日支事變ニ續ヒテ日
本ニ於テ何人モ日支事變ニ反對スルコトヲ許サレナ
カツタ。若シカ、ル行爲ヲナシタ者ノアツタ場合ハ
治安維持法ニヨリ檢舉サレ拘置サレタ。但シ支那ニ

出征シテ居タ兵隊ノ母親ガ事變ガ終ツテ息子ガ歸レ
バヨイト云ツタ場合ハコノ限リデナイ。

此ノ任務ノ外ニ特高課ハ若述演説親園演藝其ノ他ノ
形式ノ社會的娛樂公集ノ會合集會ノ檢閲ノ監督ノ職
權ヲ執行シタ。

昔ヨリ日本全國ニハ家族組運動ガアリマシタ。昔ハ
コレ等ノ組ハ相互援助ノタメ又犯罪ヲ防止シ又報告
スル目的ヲ以テ團結シテ居リマシタ。千九百四十年
(昭和十五年)末期ニ於テ日本國民ニ政府ノ政策ニ
付テ教育シ國民ヲシテ戦争ヲ意欲サセ更ニ相互援助
ト政府ニ對シ協力セシムルコトヲ目的ニ政府ノ指令
ニヨツテコレノ隣組運動ハ復活サセラレタ。隣組ハ地
方行政ノ監督下ニ在リマス。

日支事變以來軍ハ警察ニ影響ヲ及ホシ初メタ。ソノ
影響ハ千九百四十一年(昭和十六年)ヲ通ジ増強サ
レ其後太平洋戦争中強化サレマシタ。

凡ユル政府ノ機關ハ日本國民ニ軍人精神ヲ鼓吹シマ
シタガ内閣情報局ガ設置サレテカラハ眞ニ活潑ニナ
リマシタ。コレノ局ヲ通シテ凡テノ報導ノ弘布、刊行
物、著作物、映畫其ノ他ノ凡テノ社會的娛樂ニ嚴重
ナル檢閲並ニ監督ガ行ハレマシタ。カ、ル檢閲ハ情
報局ト内務省トニ依リ警保局長ニ指示シ警保局長ハ
之レヲ警察ニ指示シ活動セシメタ。

千九百四十年(昭和十五年)七月私ハ國民精神總

動員本部理事ニ任命サレマシタ。コノ本部ノ目的ハ
 國民ヲシテ戦争ヲ自覺サセルタメデアリマシテ同部
 運営ノ費用ハ大藏省カラ内閣情報部ガ資金ヲ得テ賄
 ハレテ居リマシタ。約三ヶ月後大政翼賛會ノ設立ト
 共ニコノ總動員本部ハ廢止サレマシタ。
 大政翼賛會設立ニ從ヒ同會ノ一部長ニ任命サレマシ
 タ。同會ノ經費ハ政府ガ支拂ヒ又同部ノ目的ト任務
 ハ協力會議ヲ通シテ日本全國民ヲシテ戦争ヲ自覺サ
 セ政府ノ政策ニ對シ協力サセ又國民各層ノ輿論ヲ聽
 クコトデアリマス。コノ目的ハコノ會議ヲ通シテ政
 府ノ政策ニ付テ教育シ指示シ更ニ民間ノ意見乃至希
 望ヲ聽キ以テ政府ノ政策ニ對シ等シク好意的ニ考へ
 ルコトラ彼等ニ教ヘルコトニヨリ實行サレタノデア
 リマス。

小 泉 梧 郎

上記小泉梧郎ハ一九四六年（昭和二十一年）六月二
 十二日陸軍省ビル内ニテ本官ノ面前ニテ宣誓ノ上本
 口供書ニ署名セリ。